# 会　議　録

1　会議名

令和３年度第１回上越市食育推進会議

2　議事（公開・非公開の別）

(1) 令和２年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）進捗管理表の確定値について（公開）

(2) 第４次上越市食育推進計画について（公開）

3　開催日時

令和３年８月 18 日（水）午後１時 30 分から３時

4　開催場所

上越文化会館 大会議室

5　傍聴人の数

１名

6　出席者氏名（敬称略、傍聴人を除く。）

・委　員：野口孝則、小林綾子、柳沢幸也、宮﨑容子、難波久美子、岩井文弘、栗間良子、佐々木亜子、早津知祥、桝谷友美、松井和代、北川渚、空周一

・事務局：農政課：佐藤課長、高橋副課長、北山係長、中里主事

健康づくり推進課：川合上席保健師長、保育課：渡邉副課長

上越ものづくり振興センター：勝山副所長、農村振興課：廣田副課長

社会教育課：福山副課長

7　発言の内容

**（１）開会**

【事務局：北山係長】

・上越市食育推進会議規則の第 2 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認し、会議の成立を報告。

**（２）交代委員、職員紹介**

【事務局：北山係長】

・令和３年４月１日付けの人事異動に伴い、５人の委員が交代となったため紹介する。

宮﨑容子委員（上越市小・中学校長会 上越市立谷浜小学校長）

難波久美子委員（公立保育園園長会 上越市立大瀁保育園長）

桝谷友美委員（新潟県栄養士会上越支部 副支部長）

空周一委員（上越市農林水産部長）

市川均委員（上越市教育委員会教育部長）

・任期は、前任の残任期間である令和３年４月１日から令和４年７月 25 日となる。

・また、事務局職員の変更があったため、紹介する。

＜事務局職員一括紹介（農政課、食育担当課７課）＞

**（３）会長挨拶**

【事務局：北山係長】

・開会にあたり、野口会長からご挨拶を頂戴したい。

【野口会長】

・この会議は昨年から新しいメンバーで始まった。また、今年に入って人事異動により新しい委員が加わり、事務局も新しい体制で動くということで、大変期待している。この会議は、大学の教員だけでまとめられるものではない。教育現場を始め、地域社会の農業生産・加工・流通・消費と、多くに関わっているそれぞれの人が、もう少し食育を頑張りたいという想いを出していただきたい。

・本日の議事の後半にもあるが、市の第４次食育推進計画の策定が今年のメインとなる。専門家の私から見ても、今までの上越市の食育は充実していると言える。しかし、委員の皆様の意見を聞いていると、もっと頑張れるところがあるのではないかと、会議に出る度に思う。皆様の気付きをたくさん出してもらえるのが、この会議のいいところでもある。本日は、第４次計画に入れたいこと、食育について頑張りたいこと、または頑張ってほしいという願いを込めた発言をいただけたらと思う。

【事務局：北山係長】

・本日の会議録は、後日、市のホームページで公開されるので、あらかじめご承知おきいただきたい。

・「次第４　議事」に入る。進行は、上越市食育推進会議規則第２条第１項に「会長が議長となる」とあるため、野口会長に議長を務めていただきたい。

（4）議事

① 令和 2 年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）進捗管理表の確定値について

【野口会長】

・しばらくの間、議長を務めさせていただく。初めに、「令和 2 年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）進捗管理表の確定値について」事務局から説明願いたい。

【事務局：高橋副課長】

・資料№1 から№3 に基づき説明（説明省略）

【野口会長】

・今ほど事務局から説明があったが、委員の皆様からご意見、ご質問等はあるか。

【岩井委員】

・令和元年度と令和 2 年度を比べると、令和 2 年度の方が、若干達成率が低くなっている。これは新型コロナウイルス感染症拡大により、人と接触することが難しくなったことが影響し、目標が達成できなかったということか。

・また、「―」の表記は「目標に対する評価測定不可」とあるが、詳しく説明願いたい。

【事務局：佐藤課長】

・令和元年度と令和 2 年度で、令和 2 年度の方が劣っているのは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、イベントあるいは集会、研修会などができない状況であったため、目標を達成できなかった。

・記号の表記については、「―」はアンケート等で実施状況を確認しているものである。農政課が実施する食育市民アンケートは、2 年に 1 度実施しており、最近では、令和元年度に行い、次は今年度行う。令和 2 年度の評価が判定できないということで、「―」としている。

【野口会長】

・昨年、全国的、全世界的に新型コロナウイルスの感染拡大があり、特に食育の分野においては、学校や保育園を始め多くの場面で、中止や延期、規模を縮小して開催など、今までどおりの実施が困難であったと聞いている。今年は、新型コロナウイルス感染症が流行して 2 年目になるが、昨年できなかったことを今年も中止にするのか、あるいは、形を変えて開催するのか。昨年は、感染症が流行して 1 年目であったから仕方がなかった。しかし、2 年目は「仕方ない」が通用しない。具体的にどういう形で工

夫していくのか。また、これまでどう工夫したのかという事例があれば聞きたい。

【事務局：佐藤課長】

・昨年できなかったイベントについては、やり方を工夫してやる方向で現在進めている。具体的に実施したこととしては、6 月の食育月間に、無印良品直江津で体験を含めたイベントを開催した。参加者数はそう多くなかったが、参加者からは、「食育について非常に参考になった」「パネル展示等を通じて、親子で話ができた」という意見をいただいた。

・昨年目標に達しなかったものについては、今年度できるだけ工夫をしながら目標を達成していきたい。

【野口会長】

・上越市は工夫して実施につなげている。今までイベント等は、集客人数が指標だったが、それよりもどれほど多くの人に情報を伝えられたか、イベント等を中止にするのではなく、別の形で ICT の活用も含め、多方面での情報提供の在り方を考えなければならない。人を集めることだけが食育ではなく、上越市において、食育の情報が多くの人の目に触れるようになってほしい。

・前回の会議で令和 3 年度のアクションプランが示されたが、令和 3 年度が第 3 次食育推進計画の最終年度となるので、この結果を受けて引き続き事業実施をお願いしたい。

**② 第 4 次上越市食育推進計画について**

【野口会長】

・それでは、次第の「（２）第 4 次上越市食育推進計画について」事務局から説明願いたい。

【事務局：高橋副課長】

・資料№4 から№6 に基づき説明（説明省略）

【野口会長】

・今ほど事務局から説明を受けたが、第 4 次食育推進計画の策定に向けた方向性（案）の資料№4 と№5 について、委員の皆様からご意見、ご提案をお受けしたい。

・まず私から、「４　デジタル化に対応した食育の推進」と「５　上越市の特徴を生かした農林漁業体験の充実」は順番を逆にした方がいいのではないか。国の計画の「重点事項３　『新たな日常』やデジタル化に対応した食育推進」を見ても、食育のあら

ゆる場面において、デジタル化の可能性を探るとある。コロナの影響によらなくても、デジタル化は将来進むが、コロナによってより早くこの波が来た。

・前回の会議で、「上越にはおいしい食べ物がたくさんある」という話が出た。デジタル化によって、このことを全国に、また、市民の皆様に発信できる。食材や加工品、商品、上越ものづくり振興センターが出しているブランド品もそうだが、飲食店の方々はコロナの影響で本当に大変で、そんな方々のためにも、もっと発信していくことが大事である。

・子ども向けの食育のみならず、「大人向けの食育」というか、少し良い食材があることを発信していくべきである。「子ども向けの食育のためには、身近な大人が『食』に興味を持つことが大事だ」と、教員や保護者の方々に向けて言っているが、「大人も楽しめる食育のまち 上越」を実現するには、デジタルによる発信を、子ども向けにはもちろん、大人向けにも考えていかなくてはならない。

・また、リアルな食事の体験の場についても、取り組まなければならない。コロナ対策を十分にした上で、飲食店、道の駅、直売所のような農業の方々が中心である販売店において、そこに行ったら何が買えるのかをもっと四季折々に発信していただきたい。今までは教えてもらって、いろいろな農家を訪ねた。面白い農家を紹介してほしいし、おいしい食べ物はいつ、どこに行ったら食べられるのか。今週末、浦川原区に行ったら、何のぶどうが食べられるのか。毎週ぶどうの旬が変わるくらい浦川原区は面白い。

【栗間委員】

・食品のロスをなくすことは大切である。何種類か野菜を育てているが、キュウリは見過ごすとものすごく大きくなり、ゴーヤは黄色くなる。大きいキュウリは友人にあげると、「のっぺにできる」と喜んでもらえる。ゴーヤも料理の工夫をして食べようとするが、苦くてなかなか食べづらい。しかし、黄色くなったら、ジュースにして飲む工夫をしている。今年、青じそは1m近く成長して、友人にたくさんあげたらすごく喜ばれた。味噌(みそ)汁が煮立ったときに青じそを入れて、そのまましばらく置いておくと、味噌(みそ)汁に青じその香りが移って、とてもおいしくいただける。10年前に植えたミョウガが、実り始めて20から30個は採れた。それを味噌(みそ)汁に入れ、夏野菜を楽しんで利用して食事をしている。

・今の子どもたちは、学校給食で伝統料理を食べる機会があると思うが、今考えるべきなのは、若いお母さん方がその機会に恵まれないことである。核家族の時代で、近隣

におじいさんやおばあさんがいない方たちの中には、料理の工夫の方法が分からない方が多いように感じる。コロナ禍が過ぎて、ある程度安心して料理の提供ができたら、若いお母さん方に伝統料理を味わっていただく機会があればと思う。

【早津委員】

・他県から赴任してきて働いている方によく言われるが、「食べ物がおいしくてたくさん食べてしまい、新潟県や上越市に来て随分太った」とおっしゃる方が多い。私も、生産される農産物などを全国に発信できればと思っていた。デジタル化に伴って、「食育のまち上越」というふうに、ホームページやSNSを通して発信していけたらと思う。

【野口会長】

・昨年、非常勤講師で十日町市の県立看護学校に週1回行っていた時に、コロナ禍でテイクアウトをやっているお店の500円均一の料理を紙媒体で紹介していた。十日町市の方々がやっていることだと思うが、これもある意味食育だと思う。全て市役所がやるのではなく、主語は「町の中の誰か」で全く構わないから、小さなことでも情報発信をしていくべき。インスタグラムやツイッターなど、小回りを利かせながら動く「大人向けの食育」は、民間主導の方が早いのかもしれない。

【佐々木委員】

・JAでも、地域のお母さん方やお子さん、若い世代に向けて、どういうふうに食育活動ができるかを考えたときに、「上越にはおいしいものがたくさんある」という話が出て、一地域一作物にして、できればそれを加工品や商品につなげて、子どもから大人まで幅広い世代にうけるようなものづくりをするという話をしている。

・結局若い人は結婚などで外に出ていく。子どもがこの地域に住みたくなるような視点、喜ぶという視点で考えると、まず、おいしいものがあることはとても大事だと思う。だから、この案のようにやっていってもらえたらいいと思う。

・できたものを継続するには、農業をする若い人たちが喜んで続けたくなるような「儲(もう)かる農業」と言うと少し大胆だが、そういうふうに変更していかないと、食べ物が続いていかない。若い世代に郷土食を教える場があれば、行ってお手伝いするなど、自分たちが地域で進めていける取組として何ができるかを女性部で話し合い、「食の暮らしの伝道師」という事業の準備を進めている。

・資料の「第4次上越市食育推進計画の方向性（案）」の「５　上越市の特徴を生かした農林漁業体験の充実」については、子どもに農業体験をしてもらい、それがつなが

って、農業をやりたい大人が増えるような農業体験であるとともに、「次世代の担い手を増やす」ようなニュアンスも入れられるといいと思う。

【野口会長】

・今お話しいただいたことは、JA からも情報を出してもらいたい。上越の農家には、儲(もう)かることを分かりやすく示してほしい。

・若い人の中には、どうやったら農家になれるのか分からない人もおり、そこを教えていかないといけない。その情報さえ出していただけたら、他の地域の人たちにも農業の良さを伝えることができて、他から人が入ってくる。

【佐々木委員】

・そして、上越に住みたくなるようになればいい。

【野口会長】

・そのためには、市のホームページもあるが、「これだけ安く住むことができて、こういう補助金があって、上越に来ると、こんな人にこんな農業を教えてもらえる」というような移住促進を絡めた情報提供や、「プロから学びたい」ということで、全国を旅して修行している若者も結構いるので、そういう人たちが、上越にとどまってもらえるための環境整備が必要だと思う。

・アンケートについて、日頃から手慣れている私からすると、必要のない項目は削っていくことが大事だと思う。評価指標に載っていない項目が幾つかあるので、評価指標・評価項目として使わないものは削るということが一つある。また、年齢はなぜ最初からくくるのか。21 歳と 28 歳・29 歳を 20 代として一つのグループにするのはとてももったいない。29 歳と 30 歳は 1 年しか違わないのに、21 歳と 28 歳・29 歳を同じグループにしてしまうことは、国のアンケートでも見かける形だが、初めから「あなたは何歳ですか。」と聞いておいて、後から 20 代か 30 代か、グループに分ける方が集計しやすい。一つ一つのアンケートを得た後に、それぞれの選択肢に対して平均年齢はどのくらいか、年齢による傾向の違いまで出すことができる。

・次に、週 7 日のうち週 2 日と 3 日、週 4 日と 5 日というのは本当にそれぞれ違うのかということがある。「あなたは週 7 日のうち、週何日または週何回食べるか」という聞き方をすれば、平均値が出せる。以前と同じ集計で比較したければ、この形に直せばいい。数字で聞くところを、範囲をくくってアンケートをとると、数字で聞く意味がなくなってしまう。

・コロナに関することは、アンケートに入れてあるのか。

【事務局：佐藤課長】

・まだアンケートに入れていない。委員の皆様のご意見を伺って、内容の精査をしていく予定である。今回は、第3次計画の最終的な取りまとめということもあるため、「必要のない項目は削る」という考え方もあるが、ここで一区切りをつけ、経年変化を見るという目的もある。

・年齢や週何日ということについては、国と同じ形式で質問し、また、県も同じように質問しているので、アンケートのデータを国・県と比較できることから、同じようにやっていた。先ほど、先生がおっしゃった数字を固定するということは検討したい。年齢はすぐに書けるが、書く人によって、週2・3日と固定すると書きやすい人もいれば、悩む人もいるので、回答する側にとって、書きやすいように設問を設定していきたい。

【松井委員】

・非常に大事な項目だと思うが、回答者の性別についてLGBTの観点から、「その他」という選択肢を設けたほうがいい。私もアンケートに答えるときに最初は驚いたが、大分慣れてきた。このようなアンケートについては、最新の形式をとるということで、「その他」の項目を設けていただきたい。

【野口会長】

・「その他」または「回答しない」選択肢があるアンケートが最近増えてきている。それは、是非このアンケートにも取り入れてもらえればと思う。

・この市民アンケートを実施する目的をもう一度確認したい。国もそうだが、過去からずっとやっているからやるという雰囲気が結構ある。アンケート結果の数字の上がり下がりを見て、今年の上越の食育は良かった悪かったと、2年おきに出てくるが、市民アンケートは、食育のイベント等に参加した人を対象としているわけではなく、無作為抽出した3,000人に送っている。しかも毎回違う人である。今後のスケジュールも教えていただきたいが、同一人物の事前事後の変化ではなく、全く別人に送っているので、このアンケート結果が第4次計画策定の数値づくりに大きく影響したり、目標値を設定する際の参考にしたりするということか。

【事務局：佐藤課長】

・9月くらいまでアンケートを実施し、10月にその結果を取りまとめる予定である。次

回の会議は、10 月ないしは 11 月くらいにはやりたいと思っており、アンケートの結果を踏まえた次期計画(案)を皆様にお示し、議論をしていただきたいと考えている。

【野口会長】

・改めて食育市民アンケートのねらいは、第 4 次計画の指標や数値の策定のため、評価のためということでよいか。

【事務局：佐藤課長】

・そのとおりである。現計画が最終的にどのような結果になったかという根拠となるもの、もう一つは次期計画のスタートとなる指標の数字を決める際の基礎データとなるものである。当然、アンケートなので、市民の食育の動向や全体を把握するという目的がある。統計学的に言って、3,000 人に出して、大体 20%以上の回収率があれば「確からしさ」が確率的に上がってくると言われている。男女、幅広い年齢や地域からアンケートをとって、市民の食育に関するデータを収集することが目的である。

【野口会長】

・新型コロナウイルス感染症関連の質問も入るということをお聞きし、アンケートを実施した上で、10 月あるいは 11 月に開催する予定の会議の場で、その結果に基づいて第 4 次計画を立てるということである。委員の皆様におかれては、近々このアンケートが市内に配布され、それらの集計が行われた後に、委員の皆様の意見を集約し、次期計画づくりに向けて、更に意見等を言っていただく形になると思う。

【岩井委員】

・アンケートについて、市民全体の食に関する動向を知るという目的もあると思うが、対象年齢が 18 歳以上となると、高校を出た大人が対象となる。もう少し枠を広げて、15 歳ないし中学生くらいからという考えはないか。質問項目を見ていくと、対象年齢にあった質問だと分かるが、もっと分かりやすく、難しい言葉を使わないようにし、対象を広げれば、全市民的な意見が集約できると考えるがどうか。

【事務局：佐藤課長】

・検討させていただきたい。各学校にお願いして、その世代の意見を聞くというのは可能だと思うが、その際に、同じ質問にするのがいいのかというところがある。中高生に限って、質問項目を変えるということもできるので検討したい。

【野口会長】

・以前、福岡の小さな町の食育会議で、全く同じ質問が出て、町の小学 5 年生、中学 2

年生、高校2年生全員にアンケートをとった。そして、その子どもたちの3年間の成長具合に応じて、3年後にもう一回アンケートをとった。上越とは町の規模が違うが、対象者が子どものアンケートだと、若者たちが上越を出て行ってしまう理由が分かるかもしれない。「上越の魅力は何ですか」という質問で、「新幹線がある」「高速道路がある」「無印がある」という選択肢に〇が付き、「おいしいものがある」という選択肢にあまり〇が付かないということがあるかもしれない。

・農業体験の面白さについて、市は、「全小学校で既に農業体験をやっている」と長い間言い続けているが、ただやっているだけではだめで、質の部分を次期計画では重視しなければならない。全小学校で農業体験を実施しているという報告を受けても、それ以上にもそれ以下にもならないので、このあたりは計画づくりで大きく変更しなければならない。

・国の第4次計画の中で、栄養教諭の配置促進や栄養教諭が作成する献立への地場産物の活用が示された。「栄養教諭による地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数」の現状値が月 9.1 回、目標値が月 12 回。これは国全体としての目標なので、当然上越市も含まれるわけだが、市内の何人かの栄養教諭にお聞きしたところ、「現状月9回も指導ができていない」「目標が月 12 回以上なんて、やり方すら分からない」と言っていた。国全体としての目標値が掲げられているということで、先ほど資料にあったとおり、これまでの市の計画を引継ぎつつも、国の方針の栄養教諭の話に関しては、「栄養教諭をどう活用するのか」、「上越市において活躍の場があるのか」ということが課題である。「上越市の栄養教諭のトレーニングがどこまでできているのか」、また、「時間的に動くことが可能なのか」とか、上越市において栄養教諭の課題は山積みである。学校における食育の中心的役割を果たす栄養教諭であるが、上越市の栄養教諭の現状と国が掲げた数字には乖離がある。これを踏まえて上越市では、国の第4次計画の栄養教諭の配置に関しては、厳しいところがあると感じている。配置すればいいだけでなく、質が問われるので、その質を担保できる栄養教諭をどこまで上越市では確保できているのか。国が求めてきたので、そこはやるしかない。

・これで、議事としては以上になる。委員の皆様のご協力に感謝する。それでは、進行を事務局にお返しする。

（5）その他

【事務局：北山係長】

・委員の皆様から何か情報提供はあるか。

【佐々木委員】

・JA えちご上越では、食育活動として、組合員、地域の皆様を対象に、農産物、フードロス、生活困窮者への食料支援事業の取組を紹介するコミュニティの場である「あぐりコミュニティ食堂」をやっている。今回は、9 月 25 日に「あるるんの杜レストラン 六花の里」で、食品ロスに関心のある方を対象に定員 30 名の活動を検討しているので、ご興味のある方は是非ご参加いただきたい。

【空部長】

・資料を配らせていただいたが、「上越市食料・農業・農村基本計画」を 5 年おきに見直し、今年 3 月付けで改定した。計画の中の「②消費者と食・農（生産者）のつながりの深化」では、「食生活の多様化、各世代の特性を踏まえた食育の推進、地産地消に取り組む」とある。やはり農業は作るだけではだめで、消費者を意識しなければならない。それが生産者のやりがいにつながることから、この観点をしっかりと強化し、今後も基本計画に盛り込んでやっていきたい。

・その具体例として、野口会長からも ICT 化、デジタル化を取り入れた取組と強化が大事であるというお話があったが、新しいツールを使っていくことが大切だと考えている。新型コロナウイルス感染症の拡大で、昨年から飲食店や生産者の皆様が、お店に出す食材が余って困っているという状況があることから、インターネット販売を生産者に活用してもらうことを考えた。「上越特産市場」というサイトで、新型コロナウイルス感染症拡大のピンチを契機に、今までインターネット販売をやってこなかった農家さんに新しい販売ルートを作ってもらえるようにした。広く全国から上越産品を購入してもらっており、今後もこのような取組を強化していきたい。新米が出るシーズンを狙い、全国の方に上越の食の魅力を知ってもらうため、9 月からキャンペーンを始めるので、「上越特産市場」と検索していただきたい。

【事務局：佐藤課長】

・上越市地産地消推進の店について、10 月 15 日から 11 月 30 日までの間、今年も地産地消推進キャンペーンを開催する。170 店舗の中から 40 店舗ほどにご参加いただき、そのお店が取扱う上越産品を使った料理あるいは食材を購入すると、500 円で 1 つのスタ

ンプを押し、スタンプを集めて応募すると、抽選で景品が当たるというものである。地産地消推進の店で、上越産の野菜や魚介類を食べて是非ご応募いただきたい。

【空部長】

・市としては、色々と工夫をしながらやっている。情報発信や興味を持ってもらえる方法等について、委員の皆様から今後もアイデアをいただきたい。

【野口会長】

・アイデアを出したら動いてもらえるものか。

【事務局：佐藤課長】

・広報でお店を PR することについては、市で特定のお店を薦めることができない。上越産品を扱っているお店として、どんな工夫や PR をして、上越産を買っていただく、あるいは食べていただくことができるか、現在、広報対話課と協議中である。1 つのお店を PR することはできないが、全店を市のホームページで紹介している。プラスαで、どんなことができるかを考えていきたい。先日、上越市地産地消推進会議があり、今の地産地消推進の店とはまた違った認定ができないかを検討している。上越産品の消費拡大は、食育にも関わるところであり、知恵を絞って PR していきたい。

（6）閉会

【事務局：北山係長】

・以上で、令和 3 年度第 1 回上越市食育推進会議を終了する。次回の会議は、11 月を予定している。日程等は決まり次第ご連絡する。

8　問合せ先

農林水産部農政課　　TEL：025-526-5111（内線 2106）

E-mail:nousei@city.joetsu.lg.jp

9　その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。